

Nippon Electronic Device Industry Association

# NEDIA

Magazine

2025 Winter

巻頭言

電子デバイス産業の成長に資する  
グローバル人財の育成と  
NEDIA への期待



## 2025年 エレクトロ産業展望

2025年 電子デバイス市場展望

2025年の半導体市場・投資動向

2025年 電子部品市場展望



日本電子デバイス産業協会誌

P3 巻頭言

### 電子デバイス産業の成長に資する グローバル人財の育成とNEDIAへの期待

小石 秀之 株式会社堀場製作所 取締役 グループ戦略本部長

◆◆ 2025年エレクトロ産業展望 ◆◆

P4 2025年電子デバイス市場展望

南川 明 OMDIA シニアコンサルティングディレクター

P7 2025年の半導体市場・投資動向

稲葉 雅巳 株式会社産業タイムズ社 電子デバイス産業新聞 編集長

P10 2025年電子部品市場展望

佐藤 譲 DG リサーチ アナリスト

P13 2025年は10冊目となる

「電子デバイス戦略マップ2025-2026」を発行します

NEDIA 事務局

P14 Information

P15 【広告】フジアルテ株式会社

表4 NEDIA 会員リスト



# 電子デバイス産業の成長に資する グローバル人財の育成と NEDIA への期待

株式会社堀場製作所  
取締役 グループ戦略本部長  
小石 秀之



小石 秀之 (こいし ひでゆき)

1985年株式会社エステック（現・株式会社堀場エステック）入社。

営業部門にて経験を積み、台湾支店長、海外部長などを経て、2006年ホリバ・エステック社（アメリカ）取締役副社長として渡米。

2010年に帰国後、堀場エステック常務取締役、取締役副社長を経て2016年に堀場エステック代表取締役社長に就任した。

同じく2016年より堀場エステック・コア社代表取締役社長を兼務。2012年より当社執行役員、常務執行役員を務め、2023年3月より取締役。

グループ戦略本部長として中長期経営計画の達成と、グループ全体の成長戦略構築をけん引している。

令和7年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

近年、AIやIoT技術の急速な進展とともに、次世代通信技術や環境対応型技術の需要に対応するため、世界は大きな変革の時を迎えています。技術進化だけでなく、地政学的な視点において、パンデミックの発生や政情不安等、予測困難な事象から生まれる変化にも注意を払う必要があります。この未だかつてない混乱と言える状況の中で、世界経済をリードするのが電子デバイス産業です。

日本に目を向けると、アジアや日本の半導体デバイスメーカーやファウンドリーが日本に工場を建設し、混乱する世界の中にあっても安定して操業し人財<sup>※1</sup>を確保できる土地として日本が選ばれていると言えます。ガラパゴスな商習慣、多様化やダイバーシティも進まず、グローバル化の遅れが叫ばれている日本ですが、地政学的にニュートラルであり、世界に他にない独自の文化が再評価されているのではないのでしょうか。我々日本人が気づいていないだけなのかもしれません。

このような中、HORIBAグループ（以下、HORIBA）では、ビジョン「Joy and Fun for All おもしろおかしくをあらゆる生命へ」のもと、「ほんまもん<sup>※2</sup>」と多様性を礎にソリューションで社会課題の解決実現をめざします。

2024年2月には、に新たな中長期経営計画「MLMAP (Mid-Long Term Management Plan) 2028」を策定、発表し、3つの施策を実行します。

一つ目は、「Energy & Environment」「Bio & Healthcare」「Materials & Semiconductor」の3つの注力分野で独自のソリューションを創出し、社会課題の解決に貢献します。

二つ目は、HORIBAの独自性の高い製品とソリューションの提供を通じ、持続可能な社会の実現への貢献です。

電子デバイス産業は、自らのソリューションによってサステナブルな社会構築に必要な技術を提供すると同時に、その開発や生産のために莫大なGHGs (Green House Gas) を排出しています。この相反するインパクトを同時に解決するソリューションを見

つけ出すこと。これも電子デバイス産業に課せられた課題であり、HORIBAが有する分析・計測ソリューションによりインパクトを提供できる分野と確信しています。

そして三つ目は、事業及びサステナビリティ戦略実現をリードする人財を生み出し育てる人財戦略です。

電子デバイス産業の発展には業界全体の連携が不可欠です。企業の垣根を越えた協力が、新たなイノベーションの種を生み出し、持続可能な未来を切り開く鍵となります。その鍵の一つが人財です。電子デバイス産業が創造をリードする生成AIにのちを吹き込むためにも、高度な教育を受けた人財の輩出が重要になりますが、その人財はまだ不足しています。

グローバル人財の活用をより積極化し、アジアを中心とした国々から日本の電子デバイス産業を支える人財育成を積極化することはもちろん、教育面で科学技術の重要性とおもしろさを伝え、この分野の将来人財を育てていくことがなにより大切です。

今、日本の電子デバイス産業が世界を再びリードするために、日本でも人財育成プログラムが立ち上がり、若い人財が将来に向かって輝ける可能性を広げています。多くの若い世代が電子デバイス産業に興味を持ち、世界で輝ける人財となる事を期待したいと思います。

2024年には第11回となる電子デバイスフォーラム京都が開催され、多くのプログラムが企画されました。日本電子デバイス産業協会（NEDIA）が果たしているリーダーシップに心より敬意を表すとともに、電子デバイス産業の情報発信と次代を担う人財輩出の拠点としてのNEDIAと京都の共通の思いをより深め、今後も業界の発展に向けた積極的な活動に貢献していきたいと思っています。

<sup>※1</sup> 人財：HORIBAでは従業員を大切な財産と考えて「人財」と表現しています。

<sup>※2</sup> ほんまもん：「ほんもの」から派生した、京都で使われている言葉。HORIBAでは、「心をこめてより良いものを追い求めつづけた先に生まれる、唯一無二の価値」を表しています。「ほんまもん」を追い求めるひと、そのひとの行動や努力、その結果として生まれることやものすべてが「ほんまもん」であり、それらは「ほんもの」を越えて人の心を揺さぶる存在になっていきます。